

表 1：側脳室周囲病変（PVH）

	Shinoharaら 2007 (一部改変)	Fazekasら 1991 (参考)
グレード 0	無し, または"periventricular rim" のみ	Absence
グレード I	"periventricular cap" のような限局性病変	"cap" or pencil-thin lining
グレード II	脳室周囲全域にやや厚く広がる病変	Smooth "halo"
グレード III	深部白質にまでおよぶ不規則な病変	Irregular PVH extending into the deep white matter
グレード IV	深部～皮質下白質にまでおよぶ広汎な病変	—

表 2：深部皮質下白質病変（DSWMH）

	Shinoharaら 2007 (一部改変)	Fazekasら 1991 (参考)
グレード 0	無し	Absence
グレード 1	直径 3 mm 未満の点状病変, または拡大血管周囲腔	Punctate foci
グレード 2	3 mm 以上の斑状で散在性の皮質下～深部白質の病変	Beginning confluence of foci
グレード 3	境界不鮮明な融合傾向を示す皮質下～深部白質の病変	Large confluent areas
グレード 4	融合して白質の大部分に広く分布する病変	—

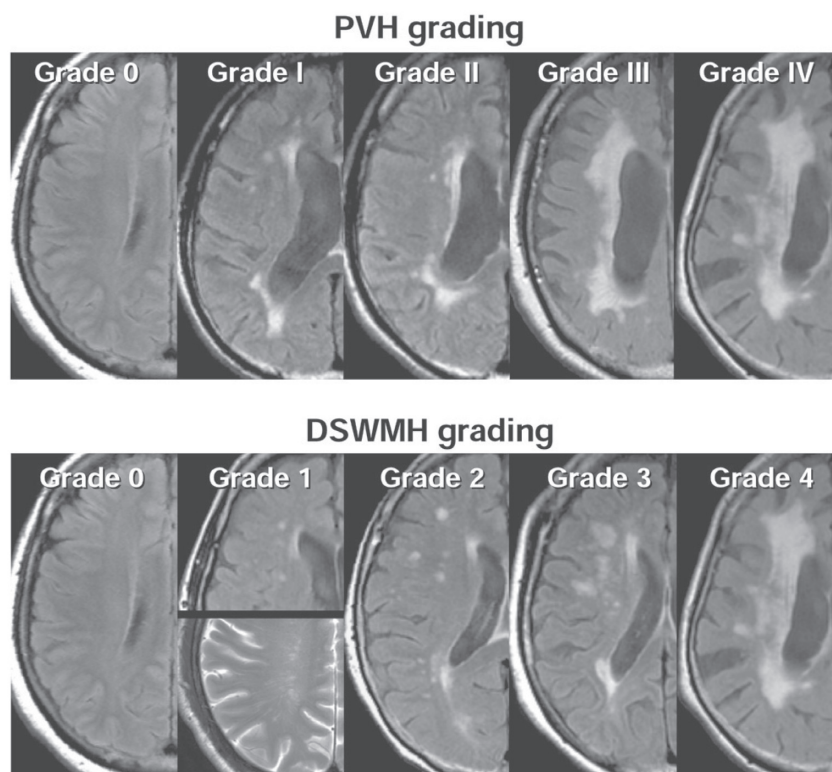


図 1：側脳室周囲病変（PVH）と深部皮質下白質病変（DSWMH）のグレード分類

表3：ラクナ梗塞，血管周囲腔，大脳白質病変の鑑別基準

	ラクナ梗塞	血管周囲腔	大脳白質病変
T1WI	低信号	等～低信号	等～灰白質程度
T2WI	明瞭な高信号	明瞭な高信号	淡い高信号
PDWI	明瞭な高信号 (+中央部が低信号)	等～低信号	淡い高信号
FLAIR	等～高信号 (+中央部が低信号)	等～低信号	明瞭な高信号
大きさ	≥3 mm	<3 mm*	さまざま
形状	不整形	整形・白質では線状	さまざま
好発部位	基底核(上2/3) 白質，視床，脳幹	基底核(下1/3) 白質，島皮質下 海馬，中脳	大脳白質 橋底部

*基底核下1/3では1 cmを超えることがある。

(細矢貴亮，佐々木真理(編)『研修医必携救急で役立つ頭部CT・MRI』，南江堂，東京，2006より一部改変して引用)

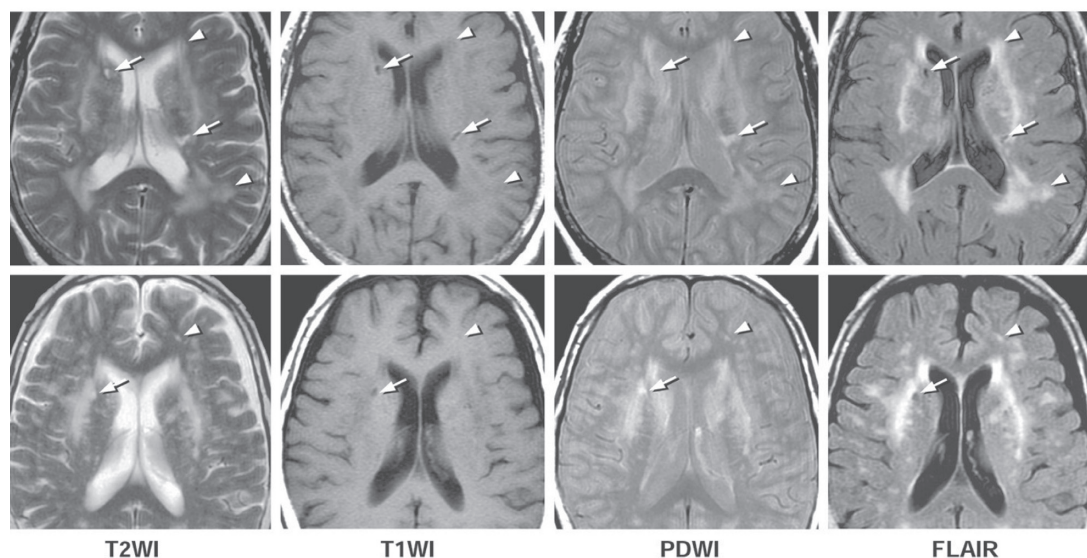


図2：ラクナ脳梗塞，大脳白質病変のMRI所見

ラクナ梗塞はT2WI，PDWIにて明瞭な高信号，T1WIにて明瞭な低信号を呈するが，FLAIRでは高信号は不明瞭で，空洞化した中央部が低信号となっている(矢印)．PVH，DSWMHは，T2WI，PDWIにて淡い高信号を呈し，T1WIでは不明瞭であるが，FLAIRでは明瞭な高信号を呈する(矢頭)．ラクナ梗塞と大脳白質病変との明瞭度がT2WI，PDWIとFLAIRで逆転する点に留意する．